

第2回学校運営協議会記録

1. 校長挨拶

住吉高校はPTA、後援会、同窓会の三者の多大な援助を受けながら日々活動している。今後も3月のケンブリッジ研修に向け動いているところである。本日は今年度の活動の中間報告をさせていただくので、忌憚のないご意見を頂戴したい。

2. 委員紹介

教頭より委員の紹介。

大塚会長より開会挨拶。

3. 今年度の本校の取り組みの進捗状況

(1) 学校経営計画

- ・2021年度の「新」国際文化科のスタートに向けてカリキュラム改訂などの検討を行っている。本校としては現在の取り組みを深化させることで求められている新学科に対応できると考えている。
- ・今年度の1年生についてはTOEIC講習の受講者が大きく増加、部活動への加入者は減少している。
- ・学校説明会を事前申し込み制にしたところ、多数の参加希望者があり急遽説明会の回数を増やして対応した。
- ・2022年の創立百周年に向けて、先行事業として普通教室全教室ほかに電子黒板を導入し、使用を開始している。

(2) 国際文化科の取り組み

今年度「英検」の1次試験を校内で実施した。受験69名、合格44名。2次試験対策が今後の課題。

例年実施しているGTECは、今年度は12月に実施。

<国際交流>

- ・今年度は海外からのグループ受け入れが台湾の中山女子高級中学（2月）のみ。1年生にとっては交流する機会が少なくなっている。
- 個人の長期留学生は1年生国際文化科の各クラスに1名ずつ。
- ・韓国研修を7年ぶりに復活させることになっていたが、昨今の情勢を受けて結局今回は中止となった。
- ・ユネスコスクールとしてはネットワークで学びあう活動をすすめていく。8月に姫路市において学び合い交流会を実施。

(3) 総合科学科・SSHの取り組み

- ・「課題研究の質の向上」「英語力の育成」をめざして取り組みを強化している。国際科学発表会に向けた英語指導をどのように強化していくかが課題。
- ・SSCにおいて「住高支援ネットワーク」を通じてメールによる英語指導を始めることになった。卒業生への周知を図り、さらなる活用をめざしたい。

(4) 進路指導状況

- ・新入試前最後の年度ということの影響が出ている～センター試験受験者減少、指定校推薦希望者増、など。
- ・新入試、とくに英語外部試験については情報提供に努めているがまだまだ不明な点が多く、対応に苦慮している。

(5) 生活指導について

- ・遅刻指導は昨年から継続した形で行っている。前期末ではのべ遅刻数は減少しているが、後期に入って特に3年生の遅刻が増加してきている。
- ・自転車安全指導に関連して今年も交通安全講習を計画中。

(6) 住吉改革委員会

4つのPTでそれぞれ活動中。

- ・学習指導PT：公開研究授業の実施。阪南中学との相互授業参観を実施。
- ・行事検討PT：各行事について見直し作業を行っている。体験入学を先日開催した。
- ・ICT推進PT：百周年事業としてICT環境を整備。使用を始めている。
- ・広報推進PT：いろいろなアイデアを出し合って検討中。学校からの情報発信についてどのような要望などをお持ちであるかなどをこのあとうかがいたい。

4. 質疑、協議

Q 海外からのグループ受け入れが減っているということであるがなぜか。

→ もともと隔年とか数年おきとなっているグループもあって、たまたま少なくなった。次年度はNYなど3グループがすでに予定されているので、減少が続くということではない。

Q 韓国研修の中止は決定事項か。

→ 今回については「状況は好転しない」という判断で中止とした。

Q 阪南中学校との交流で、高校から中学校の授業の何を見に行っているのか。

→ 高校教員にとって中学校の授業を見る機会は多くない。ICTを利用した授業などは中学校の方がはるかに進んでおり、大いに参考になる。また、中学校でどんな内容をどのように学んでいるのかを知ることが高校での授業改善につながる。

Q 卒業生が在校生に在学時の体験を語る機会は設けられているか。2年生の時に聞きたかったという要望がある。

→ 3年生に対しては卒業生による講演会を実施している。また、進路資料集に体験記を多数書いてもらっており、資料集は在校生に配られている。

また、授業に入ってもらって体験を語ってもらう機会もある。教育実習生として教壇に立ったときなどにもいろいろ話をしてきている。

学習への姿勢・方法などについては、模試の後などの機会を捉えて生徒に話をして見つめ直してもらうようにしているし、日常の授業中にも各教員が話をするようにしている。

Q 課題研究における課題発見のやり方として、ある程度の枠を絞っておいて、その中から考えさせる方が生徒たちも考えやすいということを伝えたが、その後どうか。

→ 今年度の1年生に対してテーマ設定をさせるときに、それぞれの分野ごとにこちらから枠を提示して考えさせることをしている。

Q 学科改編に伴い、「グローバル」「国際文化」になるが、それぞれの聞こえ方が違うのでその点の広報を考えたほうがいいのではないか。また通学圏が拡大するだろうからその点も。

→ 住吉としては取り組みを変えるのではなく深化させる方向で考えている。通学圏はもともと府下全域が対象であるので、かわらない。広報についてはtargetを絞るのがむずかしい。

Q 学校からの連絡について「紙媒体」を配っても生徒が保護者に渡していないなど、無駄が出る。パスワード保護をかけた形でwebで閲覧してもらう、というのはどうか。

→ 学校は生徒に対してさまざまな活動を行うところであるから、生徒をとばしていきなり保護者に連絡、というかたちもいかがかと思われる。紙媒体の連絡を減らすことは可能だが、逆に紙を手渡すことで親子のコミュニケーションを図ってほしいという思いもある。また、web上に情報を提供し

ぎるとセキュリティの問題も生じる。

Q SSHの活動対象は総合科学科だけか。

→ 総合科学科がメインではあるが、国際文化科との融合も大きなテーマとなっている。実際にポスター発表会に国際文化科も参加するなどしている。また、新教育課程で導入される「総合的な探求」では国際文化科も探求活動を行うことになる。

5. 次回日程

令和2年2月下旬を予定。